

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2020年3月5日(木)

NO. 1044号

本号3頁

群馬憲法会議 総会開催

「憲法会議の基本は憲法学習。基本に立ち返って奮闘しよう」

群馬憲法会議は2月29日に前橋市内で総会を開催しました。第一部の総会の冒頭、代表委員の吉村駿一弁護士が開会あいさつ・基調報告を行い、安倍首相の新型コロナウイルス対策と憲法改正策動を厳しく批判し、そして「憲法会議の基本は憲法学習。憲法の学習こそ大事、基本に立ち返って奮闘しよう」と呼びかけました。

次に、中央憲法会議の事務局長の高橋信一が挨拶。その後、新嶋次也事務局長が活動報告・方針・役員選出について提案しました。新嶋氏は、2020年の活動方針として、全国市民アクションが呼びかける「改憲発議に反対する全国緊急署名」を、3000万人を上回る活動で展開すること、そして、毎月第一月曜日に実施している街頭宣伝行動を、昨年度と同様に県労会議の宣伝カーを借りて、憲法会議ののぼり旗を掲げて、前橋市、高崎市、伊勢崎市、玉村町を順番周り行う等を提起しました。さらに、役員については、吉村弁護士はじめ9名の代表委員、坂井勇人権連事務局ら9名の監事、会計1名、会計監査2名を提案しました。



そして、会計担当の鈴木綾子氏が会計報告と予算案を提案しました。その後、採択の結果、活動報告・方針・役員選出・会計報告・予算案が承認されました。

総会最後に、「日本と世界の平和のために、憲法九条を守り抜くために、改憲発議反対署名を早急にとりくみ、総力をあげて憲法改悪反対の国民世論を圧倒的に高めよう」との「改憲発議を阻止し憲法九条を守り抜く」との総会決議案を参加者全員の拍手で採択しました。

第二部の記念講演では、山口富雄氏が「辺野古の現状の訴え」とのテーマで、第16次にわたる群馬の仲間との支援活動をプロジェクターで紹介し、「新基地建設は阻止できる」と展望を離されました。

新型コロナ対策 定まらぬ政府方針

振り回させる子ども、保護者、教職員等の国民

安倍首相が27日の夕方、突然、新型コロナウイルス感染症対策として全国の小中高校・特別支援学校の一斉休校を要請しました。当然、教育現場や保護者には不安と混乱が広がり、現在も混乱しています。安倍首相は「私の責任において万全の対応を取る」と主張しますが、二転三転する政府方針、安倍首相はどんな責任をどうとるのでしょうか？

もともと政府が25日に発表した新型コロナウイルス感染症対策の基本方針では、学校の臨時休校については地方自治体などの判断に委ねています。しかし、安倍首相が全国一律の臨時休校を要請し、基本方針を一転させました。

学校の休業の決定権限は、地方自治体などの設置者にあります。首相の独断の要請に法的根拠はありませんが事実上の強制力があり、全国の教育現場を大混乱に陥れました。批判が噴出する中、

同 28 日には萩生田光一文部科学相が、休校について地方の判断を尊重する考えを示し、事実上「一律休校」を撤回しました。

ところが、同 29 日の会見で安倍首相は一律休校をくりかえし、1 日のNHK「日曜討論」で自民党の世耕弘成参院幹事長は「非常に意義のある会見だった」と首相を礼賛しました。

2 日に開かれた参院予算委員会で、立憲民主党の蓮舫議員が安倍首相に「政府が決めたことを総理がひっくり返す」と批判したのに対し、安倍首相は「政府として決めたことを私がひっくり返しているわけではない」と開き直りました。

安倍首相は、感染者が出ていない地域も含めなぜ全国一律の休校なのか、科学的根拠や具体的な支援策は全く示していません。そして、首相は専門家会議に意見も聞いていません。

このようなもつで振り回されているのが、子どもや保護者、教職員をはじめとする多くの国民です。いま必要なことは、一律休校要請の撤回と、科学的な感染症対策と、財源を伴う医療・検査体制の抜本的強化、休業補償、経済対策を総合的に国が示すことではないでしょうか。



全国一律休校なのか、二転三転する政府の方針

2 月 25 日 政府の新型コロナウイルス感染症対策の**基本方針** 「学校等における感染対策の方針の提示及び学校等の臨時休業等の適切な実施に関して都道府県等から設置者等に要請する」

2 月 27 日 **安倍首相** 「全国すべての小学校、中学校、高校、特別支援学校に、3 月 2 日から春休みまで臨時休校を行うよう要請する」

2 月 28 日 **萩生田文部科学相** 「臨時休校を実施する期間や形態については、地域や学校の実情を踏まえて設置者においてさまざまな工夫があって良いと考えております」

2 月 29 日 **安倍首相** 「全国すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校について、来週月曜日から春休みに入るまで臨時休業を行うよう要請致しました」

一律休校 障害のある子に大きな負担 2 団体が改善を求める!

○全国放課後連が政府に緊急要求

障害のある子どもの放課後保障全国連絡会は 29 日、一律休校要請を受けて政府に緊急要望書を提出しました。

要望書では、突然の長期休業は子どもたちの生活リズムを壊すことになり、障害のある子どもにとっては、とりわけ大きな負担となるとしています。

具体的に求めていることは、①臨時休校の期間や形態は、地域や学校の実情を踏まえるべきものであることを周知すること。②放課後等デイサービス事業所に通所する場合の支給日数の柔軟な対応。③放課後等デイサービス事業所への臨時の財政措置—などです。

○全国障害者問題研究会が一律休校要請の撤回を求める

障害のある当事者や保護者、教員らでつくる全国障害者問題研究会は 2 日、安倍政権の一律休校要請は「障害のある子供と家族に深刻な問題をもたらす」等として、撤回を求める緊急声明を発表しました。

声明では、障害のある子どもや家族の生活には「特別な困難がある」として、通学できなくなることへの懸念を表明しています。そして、政府や自治体に対して、①学校や教育委員会が実態を踏まえた対策を主体的に検討し、柔軟に対応できるような支援策、②保護者の就労継続や所得への十分な配慮、③子どもが入所する施設の日中の職員確保—の早急な対応、などを求めています。



いいかげんにせよ! 小野寺氏のパーティーではマスク大量配布!

新型コロナウイルスによる肺炎拡大防止のため、政府が大規模なイベントの自粛を要請した26日当日、秋葉賢也首相補佐官、小野寺五典元防衛相がパーティーを開いていたことが発覚しました。また、小野寺氏のパーティーでは国民が手に入れないで困っているマスクが“大量配布”されていたと報道されました。

秋葉賢也首相補佐官問題では、当然批判が集まり、安倍首相は28日の衆院予算委員会で苦言を呈しました。ただ、更迭に関しては否定しました。

怒りを買っている秋葉氏は「パーティーの中止は難しかった。例年よりも規模を半分に縮小するなど、補佐官の立場だからこそ慎重に判断した」と釈明しつつ「同じ地元の小野寺五典衆院議員が感染者の出ている東京でやっている」と小野寺氏の名を挙げて“暴露”し、道連れにしました。

その小野寺氏のパーティーをめぐるのは、マスクの“大量配布”が波紋を呼んでいます。同氏は26日、都内のホテルでパーティーを開催。出席者同士が対面しないよう立食形式からテーブルとイスを横に並べたセミナー形式へ、食事はビュッフェから弁当へと切り替えましたが、出席者の一人によれば「各席に弁当が用意され、その上にマスクが添えられていた。数百人分はあった」と言います。首都圏を中心に品薄状態が続くマスクをどうやって大量購入できたのでしょうか。

小野寺氏の国会事務所は取材に、マスクは各席に300枚置いたと説明しつつ、同氏のモノではないと回答。「事務所スタッフに重度の花粉症の者がいる。昨年、“段ボール買い”したそうだと答えました。事務所スタッフが昨年の段階で数百枚単位で備蓄していた私物のマスクを出席者に提供したと回答しました。しかし、平気です。そをつく安倍政権、本当でしょうかと勘繰ってしまいます。

マスクは需要に生産が追い付かず、プレミアムが付いています。そのため、小野寺氏のパーティーで提供されたマスクは「閉会后、1人で5、6枚こっそりくすねて持ち帰った人もいた」とも報道されています。

各地のとくみ

大阪 「戦争させない池田の会」が50名の参加で発足4周年記念学習会を開催

戦争させない池田の会は2月24日、池田中央公民館で発足4周年記念学習会をおこない、50名の市民が参加しました。

オープニングは新婦人のコーラスグループ「おさんぼ」が「春が来た」「平和ってすてきだね」の2曲をコーラス。心にしみるきれいな歌声でした。つづいて「明日の自由を守る若手弁護士の会」の中平史さんが「今こそ生かそう、日本国憲法」と題して講演。プロジェクターや紙芝居も使い、憲法と法律の違い、人権相互を調整する原理である「公共の福祉」と「人権の外」から人権を制約する「公益及び公の秩序」の違い、平和的生存権を日本国民だけでなく全世界の国民の人権として保障する前文既定の画期性、定義もされず権限も限定されない「自衛隊」を憲法に書き込むことの危険性などをわかりやすく話しました。

仲森事務局長が1年間の活動を報告し「緊急署名」のとくみを提案したあと、会場からの質問に中平さんはていねいに答え、閉会しました。

埼玉 オール3区連絡会「安倍会見NO!」市民と野党のレイトーク

埼玉県のオール3区連絡会は越谷駅前で行った「安倍会見NO!」市民と野党のレイトークを行い、120人が参加しました。

安保関連法の廃止を求める「オール埼玉総行動」の小出重義実行委員長が「倫理観も品格もない安倍首相はいつ何をするか分からない。改憲発議できないよう急いで新署名を集めよう。5月31日には10回目のオール埼玉総行動を実施する」とあいさつしました。

日本共産党の梅村さえこ衆院北関東比例候補、立憲民主党の山川百合子衆院議員、社会民主党の船橋延嘉県連合副代表、埼玉県市民ネットワークの辻浩司県議が連帯のあいさつを行いました。

埼玉弁護士会も、連合埼玉、埼玉労連の代表らもマイクを握り、訴えました。

レイトーク前には、埼玉弁護士会が憲法への自衛隊明記に反対するパレードを行いました。